

麻生区区民会議 第16回 市民活動・地域活動の活性化部会 議事要旨

- 1 開催日時：平成28年3月15日（火）午後3時～午後5時10分
- 2 開催場所：麻生区役所第2会議室
- 3 出席者：〔専門部会委員〕
岡倉委員、高橋委員、石井委員、石川委員、植木委員、小尾委員、高倉委員、林委員、宮本委員
（欠席）横田委員
〔事務局〕 井上、白石、麻生 [コンサルタント] 中島
- 4 傍聴者 0名

5 議 事

（1）企画部会の報告について

部会長より説明。併せて、区民会議フォーラムの結果について事務局より説明

- ・アンケートの回収率が極めて高かった。鉛筆を併せて配布したことが要因だと思う。
- ・アンケート結果の参加の有無を男女別で分析したら面白いのかもしれない。
- ・周知方法としてやはり手渡し非常有効だとわかった。区民会議委員と知人からの誘いの数を併せると非常に高い。
- ・参加していない人の割合から考えると、35人の背中を押したのではないかと思う。

（2）報告書（検討経過部分）の三校案について

事務局より説明、今後は企画部会へ引き継ぎ、校正などを進めていく旨、説明。

（3）前回の会議の振り返りについて

コンサルタントより説明。

（4）提言に向けて

コンサルタント、事務局、部会長より、資料に基づき、提言内容の説明あり、検討がなされた。

【主な意見】

- ・情報を集め、情報発信の共有のスペースが必要。具体的な部分まで持って行きたい。
- ・情報センターはリアルでは難しいが、ホームページ上、バーチャルでつくろうと思えば簡単である。
- ・ホームページを利用できる人ならいいが、できないシニアもいる。
- ・市政だより区版を活用するという案もあるが、自宅に届いていない区民もいるのではないか。
- ・社会福祉協議会の麻生区ボランティア活動振興センターでは、ボランティア情報紙「ぼらぼら広場」を発行している。そこに社会福祉協議会関連以外の団体も掲載できないか。
- ・効果がどこまであるのか。費用も社協もちになるのか。
- ・区民会議で審議している内容は、トータルの部分、すぐそこに行けばわかるという総合的なコーディネート機能の話ではなかったのか。
- ・区民会議では、ボランティア情報センターをつくるというところまでが提言。その先の、どう作っていくか等の、各機能は提言を受けた区長、行政が検討すべき部分である。
- ・場所は後で考えてもよい。まずはセンターをつくる。旗印を上げることが提言の真の部分である。
- ・事務局が作った資料は、区民、団体に任せて、区役所や行政は何もしないように見える。
- ・行政の最大の役割は、将来像をつくる、理想指針を掲げること。協働は、行政、区民のそれぞれがそれぞれの役割を果たすこと。
- ・区民会議からも区民に対しての発信が必要。区民の項目が一番前に来るのは、自治基本条例の基本的な考えに沿って良い。
- ・今回は、センターをつくるというところまで固めた。本日はその先の提言内容を議論した方がよい。

- ・センター構想に向けて実際に汗を流している人がFACE to FACEで話し合うことが大切。たとえば3つの中間支援機関が、機関レベルではなく、担当レベルで議論していく、その先に区民を巻き込んでいくようなイメージ。
- ・センターの機能の議論がなされていない。人材登録制度等はどうか。
- ・人材登録制度がどのような形か、今まで議論されていない。ちょいボラのような軽いボランティアは制度に入らないのではないか。
(コンサルタントより、ボランティア情報センターに向けて設立にむけて、具体的な組立が必要な旨、例えば準備会等はどうかとの示唆あり)
- ・確かに準備会という具体的な方向性が必要、とりあえず行政に対して、その一歩をすすめてみたらどうかということ提言したらどうか。
- ・地域社会では、ちょいボラというように、手を差しのべることが大切。ボランティアへの理解が区民に届いていない。
- ・昔は共同体の中で当たり前にあったことが、今はない、それが消えてしまったので、ボランティアのまちあさお という社会像を掲げることが必要
- ・そのアドバルーンが情報センター。
- ・地域の人たちの中で助け合いという意味では、これからの地域包括ケアシステム、地域みまもり支援センター設立の趣旨とあう。
- ・地域包括ケアセンターでも介護予防の分野でボランティアが不足していると聞いている。
- ・今のところ、健康体操のところでは不足はみられない。
- ・提言を受けた区長が、どう動くかは区長の判断。機能については今までのまとめでよいのでは。
(コンサルタントより、中心の区役所・市民交流館・市民館・社会福祉協議会から、センターへ形を広げていくのはどうか示唆)
- ・団体に対して参加者の募集、フォローのノウハウを提供する等、情報センターにはトータルな視点が必要。
- ・ボランティアを活動している人や団体が沢山いる、徐々に周囲の人や団体がセンターに入っていくようなイメージ。
- ・情報センターの機能として、こういうことが挙げられるが、最後に急務な部分について対応してほしいとの一文をいれてもよい。
(事務局より、準備委員会と地域人材育成会議は、同じような構成になってしまうが、その辺はどうか)
- ・それは提言を受けた行政が考えること。似たようなものがあるならば一緒に含める等、行政が検討していくべき事項。
- ・地域人材育成会議の流れは、区民がわからない。どういう動きをしているのかわからないから、区民に分かる形が必要。準備委員会に公募を入れるなど工夫が必要。
- ・地域が望んでいることをピックアップして、市政だよりを活用して発信していくことが必要。
- ・単発に載せても意味がない。ある程度塊をつくって発信しないと意味がない。

本日の審議を踏まえて、勉強会※にて提言の形式を整え、企画部会に提言案を出す旨確認した。

※4月18日(月)15時~17時(第7会議室)開催